

## 相馬のリンゴと地域文化に対して感じたこと

作成：ヤマダさん

### 🍏 ツアーへ参加したきっかけ

私は、大学院で農業の経営についての勉強をしてきており、農業地域で農業に関わる仕事や生活をするに関心があったため、農業地域である相馬地区の体験ツアーにこの度参加しました。私が今まで勉強してきたのは水田作（水稻作）の集団営農で、リンゴではないものの、相馬地区では水稻作も行われていますし、地域の結びつきも強く、個別に農業をやっている草刈りなど皆で協力する習わしがあるような印象がありました。

### 🍏 実際に来てみた「相馬地区」

今回のツアーで、私の印象に残った場所は、相馬村農協が保有するリンゴ選果場です。今回、リンゴの選果場を初めて見ましたが、とても大型の施設で驚きました。施設内の見学では、光センサーで画像診断を行って色や形などを判別し、自動で等級ごとに選別されていく様子を間近で拝見しました。選果だけでなく、段ボールへの箱詰めや発泡スチロールへの梱包なども機械で行われており、自動化がとても進んでいるのだなと感銘を受けました。地区の人口減少などで選果場で作業する人員の確保も大変な中、人間の代わりに機械の作業を増やすことで、地域のリンゴ農業が維持できるならとても良いことだと思いました。相馬地区にとって、農協は、選果場の運営などにより、農家がより良く農業を営む上での重要なパートナーになっていることを実感しました。

また、相馬地区のリンゴの園地で収穫の体験をしたことも印象に残っています。初めての経験であり、木からもぐ際に、時々実を傷つけてしまい、難しい作業だと感じました。



### 🍏 ツアーを通しての感想

今回のツアーでは、懇親会などで相馬の方々とお話をさせていただきました。実際に話してみて、とても親切で明るい性格の方が多いと感じました。よその地域から訪れた私に対しても、気兼ねなく接して下さり、相馬の皆さんの人柄の良さがありがたかったです。

また、沢田地区の神明宮をご紹介いただいた際、中山間地の集落で、大量のろうそくを使った盛大なまつり（「ろうそくまつり」）を今でも守り続けていることに驚き感銘を受けました。しかし、現在では、10戸未満の家で神明宮を維持しているとの言い、厳しい状況でも何とか維持しようとする地域の方々はずごいと思うと同時に、持続の厳しさも感じました。

しかし、弘前大学の学生などが「ろうそくまつり」の運営ボランティアとして関わっているとも伺い、そういった若い希望の芽が今後育っていくことが鍵となるのだと思いました。

